自然教育園見ごろ情報

2026年11月19日号

附属自然教育園 検索

詳しくはＨＰの「見ごろ情報」をご覧ください
https://ins.kahaku.go.jp/

今週はここに注目！

センリョウの実が色づきました！





カルガモ

街中の公園でもみられる身近なカモ。池にのんびり浮いていたり、水中に顔をつっこんで餌を探す様子などが見られます。



オオハナワラビ

夏に枯れる冬緑性のシダ植物です。高く伸びた部分は花ではなく、胞子が入った袋（胞子嚢）をつける葉（胞子葉）です。胞子嚢にさわると、中から白い胞子が出ます。



カラスノゴマ（実）

細長い実の中の種子が、食用のゴマに似ることが名前の由来です。実が赤く色づき、とてもきれいです。



実の中の種子



マユミ（実）

しなやかで丈夫な材質で、弓の材料として使われたことから名付けられたと言われています。秋にはピンク色の実が4つに裂け、赤い仮種皮に包まれた種子が顔をのぞかせます。





ヤツデ

おしべ→めしべの順で熟し、めしべが熟す時期にはおしべはなくなります。これは、同じ花の花粉がめしべにつく「自家受粉（じかじゅふん）」を避ける仕組みです。7～9裂する掌のような大きな葉が特徴です。



ムラサキシキブ（実）

美しい紫色の実を、源氏物語の作者「紫式部」の名前にたとえ、この名前がついたと言われています。

サネカズラ（実）

鮮やかな赤い実がたくさん集まってボール状になります。つやのある色合いが食欲をそそりますが、あまり甘みはないようで、食用にはされません。野鳥にもあまり人気がないようです。



センリョウ（実）

古くから日本庭園に栽培され、花びらのない小さな花を多数つけます。赤くなった果実は、「千両」とも呼ばれ、正月の「縁起物」として飾られます。

天然記念物及び史跡
科博 自然教育園

©2026　独立行政法人国立科学博物館附属自然教育園